

## 教職員自己紹介

松永 勝也 ( まつなが かつや )

知能情報学科・教授

1941 年長崎県生まれ。1972 年九州大学大学院文学研究科博士課程 ( 実験心理学専攻 ) 中退、1972 年九州大学文学部心理学講座助手、1974 年熊本大学講師、1976 年文学博士 ( 九州大学 )、1977 年熊本大学助教授、1978 年九州大学文学部助教授、1985 年 - 86 年カリフォルニア大学バークレイ校文部省訪問研究員、1991 年九州大学文学部教授、1996 年九州大学大学院システム情報科学研究科教授、2000 年九州大学大学院システム情報科学研究院教授、2005 年 3 月九州大学定年退職、2005 年 4 月九州産業大学知能情報学科教授。

これまで、人の認知特性・認知メカニズムの解明、遠隔操縦におけるヒューマンインタフェースの研究、人工現実感の研究、交通事故防止の研究、自然災害発生時の人的被害防止の研究を行ってきた。

社会的な活動 ( 一部 ) : ( 平成 11 年度 ) 福岡都市科学研究所「福岡の地下空間の利用に関する研究委員会」委員、( 平成 12 年度 ) 福岡県「御笠川流域協議会」委員、( 昭和 60 年 ~ 現在 ) 特殊法人自動車事故対策機構「適性診断業務検討委員会」委員、( 平成 10 年度 ) 大分県警 / 建設省大分工事事務所「交通事故防止対策検討委員会」委員、( 平成 10 年度 ~ 15 年度 ) 特殊法人自動車安全運転センター研究委員会委員長。



安武 芳紘 ( やすたけ よしひろ )

知能情報学科・助手

福岡県北九州市出身です。九州工業大学情報工学部知能情報工学科を卒業後、九州工業大学大学院情報工学研究科博士前期過程を修了、九州産業大学情報科学部の助手に就任しました。

研究テーマは分散オブジェクト指向計算環境における並行実行制御です。分散オブジェクト指向計算とは、地理的に分散したオブジェクトが協調して計算を進めていく計算モデルです。

このモデルは分散計算とオブジェクト指向計算の両方の性質を持っており、現実世界のものごとを表現することに適しています。

オブジェクトは処理を行う主体であり、それぞれが並行に実行されます。そのため、全体の処理を正しく行うためには複数のオブジェクトが協調する必要があり、並行実行の制御が必要となります。現在は主に同期に関する記述方法や言語に注目し、並行プログラムの記述性や再利用性を高める方法を研究しています。また、オブジェクト指向言語 Java における並行実行パッケージやプロセス指向プログラミングなど、並行プログラムをとりまくこれらの向にも注目しています。

講義では、情報科学基礎実験、情報回路実験を担当します。実験することで技術を身につけてもらおうと共に、ものを作る楽しさを経験してもらいたいと思います。

